Greeting

年頭のご挨拶

創立150周年に向けて教育環境整備を進めていきます

新しい年、2019年がやってまいりました。政府の地方創生の方策により、都内の大学の定員増は10年間認められないことになり、各大学の定員管理が厳しくなりました。また、中学高校の教育内容が変わり、同時に2021年1月から「大学入学共通テスト」が導入され、大学入試が大きく変わるなど、教育界は今、一大転換期を迎えています。

このような激動の時代のなか、跡見学園は6年後の2025年に創立150周年を迎えます。この記念すべき年に向けて今年度、すべての学生・生徒が安心して学べる教育環境、すべての教職員が誇りを持って働ける職場環境の整備・充実を図るべく、「跡見2025全体構想策定委員会」を立ち上げます。

創立150周年事業を推し進めるに当たって、私は改めて「学生・生徒主体の教育」という原点に立ち返るべきだと思っています。保護者の皆様が学費を払ってわが子の教育を跡見に託す、それは本学園に対する「投資」と言えるでしょう。では、跡見の何に期待して投資するのか。私は①跡見の教育（カリキュラム）、②施設・設備、③安心・安全の3つだと考えます。保護者の皆様の負託に応えるためにも、この3つの教育環境の整備・充実を図っていくことが、150周年に向けて何より重要なことだと思うのです。

教育の中身をより充実させ安心して学べるキャンパスの再整備を図る

大学では昨年4月に「心理学部」を開設するなど、この20年ほどの間に学部・学科の拡充を図ってきました。今後はカリキュラム、すなわち教育の〝中身〟を一層充実させていくことが重要であるため、現在、カリキュラム改変に向けて検討を進めています。

私は、とりわけ知の扉となり、専門知識の幅を広げる教養教育の改革が必要だと考えています。確たる解のない出来事が頻発する現代社会では、文系でも生命科学や健康科学など理系に関する知識が求められます。その意味で、教養教育には文系・理系相互を横断した文理融合型教育が望ましいというのが私の見解です。文理融合型こそ、女子大学に於けるグローバルの一端であると確信します。

中高では、ネイティブの教員による実践的な語学教育、および、情報機器の操作を学び、ITの基礎を習得し、大学での実践的学びにつながる力をつけさせるIT教育の充実が必須だと思っています。

施設・設備については、大学では文京・新座キャンパスの再整備計画を早急に立案していかなければなりません。学生の教育・研究、さらには就職活動の利便性を考えた場合、文京キャンパスでの4年間一貫教育が望ましいと言えますが、新座キャンパスも長年にわたって地域と密着した教育を推進してきた歴史があります。それぞれの特性を活かしながら、学生が思い切り学べ、快適に過ごせる両キャンパスのあり方を考えていきたいと思っています。

現在の中高では原則家庭の手作りのお弁当を持たせることを教育方針としてきました。それを否定するわけではありませんが、現在中高では共働きの家庭が多数を占める状況から見て、生徒が昼食を摂りながら、楽しく語り合うことのできるカフェテリアを設置することが喫緊の課題です。安心・安全の観点から塀や校舎の手すりの点検・整備も急がなければなりません。

このほか、教育・研究を支える財政基盤の健全性確保、教職員が安心して働ける職場環境を創造するための働き方改革も、150周年に向けて取り組むべき重要な課題です。

皆様には、150周年に向かって本学園が進める教学改革を、厳しくも温かい目で見守っていただければ幸甚に存じます。

跡見学園理事長
山崎 一穎